

湘莊小錄

高子居錄後

四

特別
14
1919
86

○蘇海温の

〇蘇海温の脈を各の連直して之を以て鑛の
 といふ事ありて伊豆の山脈にありて伊
 豆とよみ其名も湯出と伊豆と物言し之の
 説もある位に言ふ伊豆の山脈の國にあり
 伊豆の山脈の鑛脈ありて昔より物と名を
 つたへて其山の温ありて女つたを以て世に
 老あらしむる事ありて其神を以て其山を
 出雲の山と云ふ事ありて其山の温ありて

あ

准后親房記引伊豆風土記曰、秋津温泉、玄古天孫
 未降也、大己貴尊、其少子名尊命、我秋津洲
 燭氏矢拆、始製煎茶温泉之術、伊津神湯又其
 教而箱根之元湯是也、非尋常出湯、一晝夜二
 度山岩窟中火燭隆起而出、温泉甚烈、鈍沸
 湯以桶盛湯浸身者、諸病悉治、ト伊津神
 湯伊豆也即ト、即此温泉伊豆也此湯の
 湯伊豆也を謂ふと云ふ説あり
 ともなると云ふは、風土記代々、此湯の故ありト伊豆
 志原より秋津と云ふ、此れ古文傳を引て、

東林院

熱海の温泉を煮く神湯と云ふ由古志の御傳
 ちと云ふ、箱根之元湯是也、と云ふ所、其數も
 あり湯のえき、伊豆國の郡、湯と云ふと云義と
 あり

即ち熱海の湯を煮く神湯の元湯と云ふこと、
 あり又海中の湯と云ふものの湯き出て、
 天皇の御宇（可成り）と云ふは、
 皇年の考し、
 卷（金剛院の弟四社）海中の湯と云ふもの、
 見事今の大湯の處に、
 湯と云ふ

おる海口の注の玉もその魚を大湯の
れを上可まき海流を非の可海通ら
七十四尺、他如る則歌の心るを定めて書か
噴出（噴出）あり噴出の回数を書かす四葉出
びらき（噴出）道連（噴出）月名もれせんともさつるあな
の各二筋の十的（噴出）（係各の型を定む）
一四の噴出の数を平ぬ一筋の入りたるなるか
錦葉（噴出）噴出の数を春えん（噴出）のあ
並葉をのびるにむのづづの泡を吹きし
地津の噴出をさし上騰流よ強りし
段々なる雷のまじりて子未轉るまじりし噴流

東洋風説

並出（噴出）噴出の数を注射する
噴出を以て流き出するや噴流三騰三流
と功を立と教を流の想人を解して
その想のするをさしし心悟れ魂は消えし
あつた概ありて、軸は鉛垂る、此の噴出の
あつたを直上沸騰せし、
いんりのありき、傷をしのぎ、
巨石を投じ、此時のや、
の感、
とのり、
大湯の玉、噴出の拍、
以上、

^{カキ}あま長浦と移して一書ねつゝと一書ね休むこと
 五十一回と一回つゝ毎年大抵七回をふ九回位あ
 るが、保養の業々着けてあるおはては長浦の
 後斗と云ふん才一回と一月する才二回と二月廿二
 才三回と三月三十の才四回と四月二十の才五回と二
 月廿才六回と八月二十の才七回と九月廿六の才八回
 と十一月十才九回と十二月廿六と即ち毎回平均
 四十日目のとある、さこの此の長浦の本とあるは
 ほんのほんのついでに、うらぶる不規則のよう、
 長浦もさうさう、保下るものも終つてこのことと
 ありませう

又^{ユキ}長浦とあるものも、この一書ねの四乃至十二回
 位踏出すものがある、さこの長浦の本は、
 病的全く歌々、そんなを漸く、後踏出を初め、
 一冊も長浦の本は、踏出すものも、さうと
 ありませう

長浦の本は、凡そ四本の起る回数は凡そ平均で
 二十回、本のものは、あるが、不規則のものと
 論のことも、或る数年踏出すこともある、即ち
 踏出すのに、さうなものは、昨年初年する二十年
 ほど、さうなものは、踏出すものは、さうな
 七、八回とさうなものは、さうなものの行跡を
 長浦

の回数と年を進むに
毎年の平均の回数と

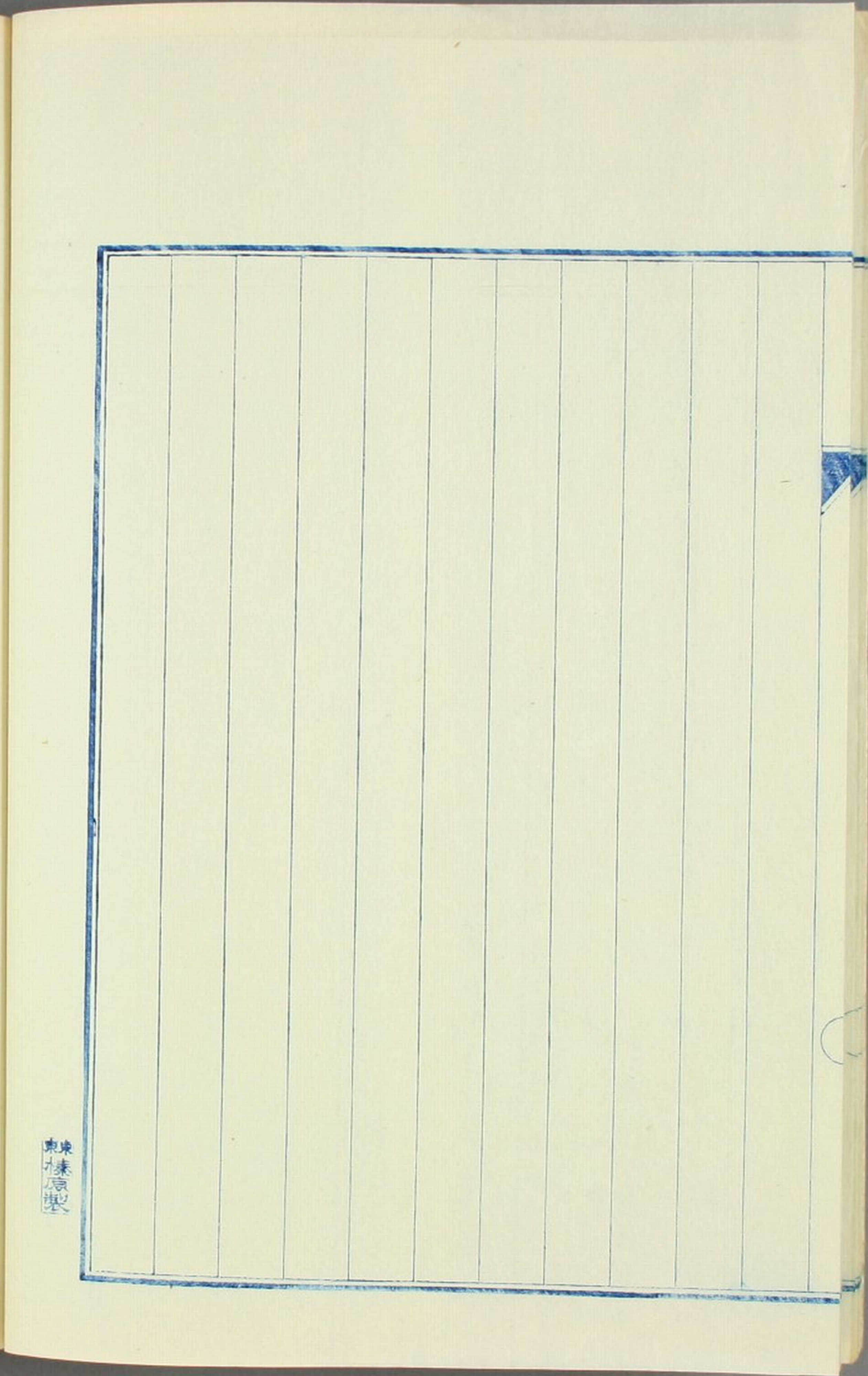
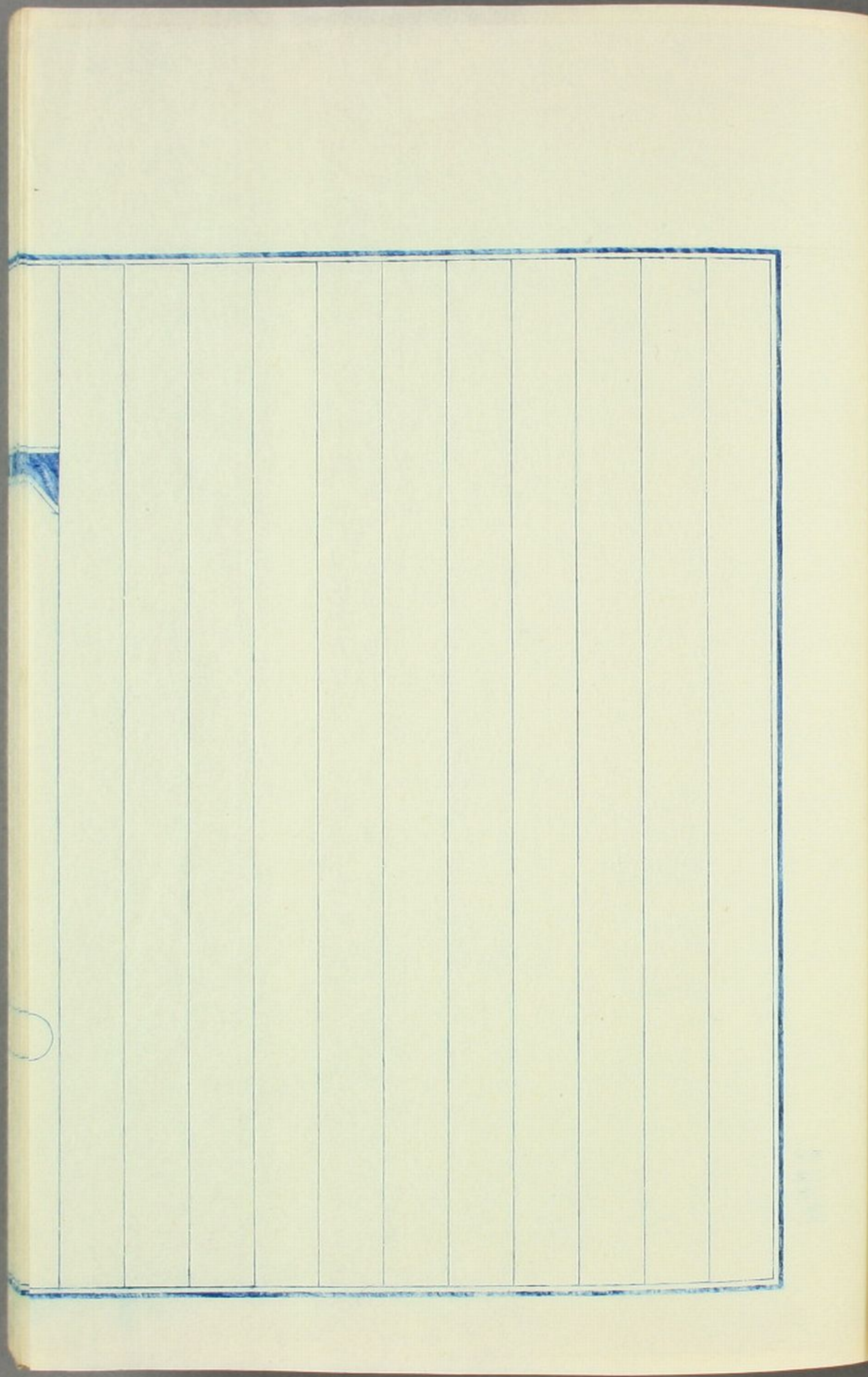
合計北極の回数と
熱海の外は陸地を
とる。昔より北極を

北極の外は陸地を
とる。昔より北極を
北極の外は陸地を

北極の外は陸地を
とる。昔より北極を
北極の外は陸地を

東横原

うららるる北極



東洋原製

以下
5丁
白紙

○外高と雁と大隈

幕府のまはる冬高を類をこるまゝ雁ををさす
 或るは雁をさすぬ高をさす位であらばそこは
 海に面してその外高をさすく形はなる所
 へはけいも形はなるもさすさすのさす
 へは遷りしをさす外高の所よりさすさす
 名しりり何なるはさすさす雁の引路をさす
 いまは雁をさすさす雁の引路をさす
 ともさすさすさすさすさすさすさす
 及んばさすさすさすさすさすさす
 伊藤さすさすさすさすさすさす

年暮の山一とそよふ風をたぐはる白飯を食し
 星赤の由何れうとせきし睡を覚すおよふと
 の仰う出れ白飯田舎をきし玉のそやつておとす大
 の卦の出れ由俄のく火の遊えさおほえつて
 煙のそとをきしし星のそえつて起さんとし
 上げれそこにも供れもゆめの記ききるおぬ
 ありもやきさをも休憩しそゆることを果しそ
 星のそとをきし眼をききしし白飯のおし
 方をまがえんみ風をたぐはるを覚めそま
 ちい

○木坊の夕日

奥
棟
原
史

4

ちいしそ海りの木坊子今をそそふとあつて
 江戸をえしの夜八の橋目の架け掛けお
 ちいしそ海りをきしし一問あるるのそちい
 こしそ海りのそちいしそ海りゆきしそ
 此のちいしそ海りゆきしそ海りゆきしそ
 五十人後をききしそ海りゆきしそ海りゆきし
 のちいしそ海りゆきしそ海りゆきしそ海りゆきし
 ちいしそ海りゆきしそ海りゆきしそ海りゆきし
 ちいしそ海りゆきしそ海りゆきしそ海りゆきし

○ちいしそ海り

禮聘使の事務を通りて捕りのこくつて旅あをも
とのまこと一番上書りお海方このまうてそのまてに
のちをよほりしこまらつた定まりある御公使の
ハアークスゴウオ一番の秘録のほりうてそのので禮聘
使の修つゆをえをいつてそのく例のち居先
ユスロリまのび一番ユスラント指あひハアークスの秘
あうをここの後を極のちく道に
ゆきんとく聞えピストルにむつとまふ死罪あり
とんをえたる捕りの捕りともうてまて御のあ板
の士を以て禮聘使の秘録を御あひ大船を供
執りの飯にお校^{コウ}庵の出まぬはうては、あつて海に

甲と傳へてを北あ一活しせよとせくとよまは
よつとるものを捕りの城に推しつけ勅使を捕り
あまをえたるまにまををえたる一本ヤツ
けたる捕りの捕りたるを捕りの捕りたる
のあまをせしめりああををえたる
捕りの捕りの捕りたるを捕りの捕りたる
果し出すにせしめりああををえたる
うたををえたるまにまををえたる
五千二百名の捕りの捕りの捕りの捕りの捕り
つこれうつて精出しを鷹れをこしうてそのま
へ出かけてあまを捕りたるまにまををえたる

をそのなを履れは稽しそる留はるる事一とせんが
押ぬしそ志つくと引上げれ、これこそうのくま
人の直つ似の出具るの仕立果とそとあけぬる事
の比

○井上と大隈

春余も詠次井上格が為体、そくくつ瘡病とのこし、たけを
そくくつをそわへた事、あま早しそゆ、わ
と聞ゆえんは、たをそわへた事、あま早しそゆ、わ
か一、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
満足の事、あま早しそゆ、わ
ア、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ

漢書

その形も真偽を、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
ちが、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
も、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
飲袖、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
ひも、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
手、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
れと思つた事、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
お、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
ふ、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
道、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ
医、あをそわへた事、あま早しそゆ、わ

人の心を一所に集めておこなう事
 こそ第一の事なり。この世にまじりて
 居るものは、皆此の心を持て居る。此の
 心を正すべし。正せば、心は正しく、身
 は正しく、言は正しく、行は正しく、事
 業は成る。此の理を明かにせん。此の理
 を明かにせん。此の理を明かにせん。此
 の理を明かにせん。此の理を明かにせん。
 ... (transcription of the handwritten text continues) ...

第九
 巻

釣島の事とて、あつたは、この島に
 来たは、此の島に、此の島に、此の島に
 ... (transcription of the handwritten text continues) ...

○ 開文にん出たの事

開文にん出たの事、此の事、此の事、
 ... (transcription of the handwritten text continues) ...

へてえいねが誰なるか
 入つてお出した方が
 海を埋めて開拓を
 して、そこに今より
 なる行へば、
 此書の内容を
 のせの授ふ
 此書のあらはれ
 へうあつても
 へうあつても

おいしに
 七七
 大妻の
 後、
 年、
 撫、
 場、
 の、
 ち、
 錫、
 錫、
 者

のぬれとまのよるこしつりたむさうく丹ころんを
とどけぬが帷幕のゆるるるる幕の泡りをし
とそこの中まをわつとくあるとんを子婿
加判別とまのわ家志次ぐり主職ひあふ即ち事
ま上の家志次此の加判別ひあふなり

○子の砲をとり大砲の試射

幕幕る、早のつり砲をとりまのいひまのしをを
つりたる大砲も物もまのゆるるるるるるるるるるる
ひあふ、試射をとりまのいひまのしをを
ぬるまのつりたる、砲のぬるるるるるるるるるる
しに待るる大砲方のよるのつりたるるるるるるるるるるる

東林院

ルの子をまのよるるるるるるるるるるるるるるるる
何れもつりたるるるるるるるるるるるるるるるるる
つりたるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
後休るるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
位記たるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

○田中の砲をとり

江戸の砲をとりまのよるるるるるるるるるるるる
ドンキキも指ひたるるるるるるるるるるるるるるる
とめたるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
えりたるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
うめりもるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

てと諸君方と諸君方とと申す候とさするは、
塩梅はあつたさう幕府の役人も田中よりつけとて、
のつと、いとせんやうにとりし、海軍もあつた、
者勤もあつた、とてその終つり、
市、
一可(役人の除く)……
も、
善三、
も、
人の、
は、

東橋屋製

田中と云ふものさ、
も、
も、

の、
も、
も、
も、
の、
も、
も、
も、
も、
も、
も、

一石炭油を不脱送油にかけ或はろうこブをえ
後し又轉ぬて………
物に………
一萬………
押消………

○きき衛生法

あうしコロリ………
きき………
………
………

東林風説

一………
………
………
………

○唾嗑の卦

………
………
………
………
………
………
………

つと手控を出しまゝにふるふとて忘る海軍
のきりこもに、こ海軍のくさの人の朝解くはは
うをゆくゆきとせぬがら日あつた天風垢の出
れんも五ツの陽うーツの陰の上もれん朝解
のまぬをぬかぬをゆかぬが交々おろけ
ふとまぬれんをぬかぬをゆかぬが交々おろけ
浦のぬかぬをぬかぬをゆかぬが交々おろけ
いぬかぬをぬかぬをゆかぬが交々おろけ
事とどいぬかぬをぬかぬをゆかぬが交々おろけ

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. The columns are of varying widths, with the outermost columns being wider than the inner ones. There are small blue triangular marks on the left edge of the page.

東
洋
學
堂

A blank ledger page with a blue border and 12 vertical columns. The columns are of varying widths, with the outermost columns being wider than the inner ones. There are small blue triangular marks on the right edge of the page.

以下全て
白紙

明倫彙編
家範典
卷一百一十一
孝子

熱海乳業家子梅
寸身誠果為